

研究課題名 : ①ぜん息発症予防のための客観的評価指標によるスクリーニング基準

申請課題名 : 気管支ぜん息発症予防のための客観的かつテーラーメイド的予知のスクリーニング基準の  
確立

調査研究代表者氏名 : 近藤 直実

評価コメント

- ・問診項目の多くが遺伝子多型・変異によって裏打ちされたことを評価する。
- ・喘息の発症予知には病歴の聴取が最も重要であるという事が明らかにされただけでも有用な研究であったと考える。
- ・来年度に向けて、より充実した内容のマニュアル完成のために、より遺伝的因子の成績を反映してほしい。症状の裏付けとなる遺伝子については理解できた。検討した遺伝子について多変量解析してはどうか？このままで行くと、従来の予知マニュアルと同じになるのでは？
- ・健康相談事業に活用される問診票作成に期待する。「運動でゼーゼー」の設問は重要なので、「家族のぜん息」との組み合わせを発症予知に反映させると良いのではないか。文言は「はしゃいだり、おお泣きでゼーゼー」など乳幼児に適したものに工夫を要する。
- ・予知スクリーニング基準の確立に遺伝子情報を組み入れることで、1歳6ヶ月から3歳児の喘息の発症予知に効果があることを更に定量的に評価できる(ROC解析など)方策を加えられたい。
- ・研究タイトルには、「テーラーメイド的予知」とあるが、遺伝子多型を直接測定しない場合に、どこまでテーラーメイドといえるのか、限界をはっきりさせておく必要がある。
- ・これまでの研究の集大成として、テーラーメイド的予知パネルの信頼性を検証する段階に入っているのではないだろうか？1歳6ヵ月健診の問診や血液検査の結果から、3歳までの喘息発症をどの程度の確率で予知することが可能か検証して欲しい。
- ・いくつかの候補遺伝子が発見されたが、アンケートから得られるリスクファクターとTGF- $\beta$ 、ADRなどの遺伝子多型を加味した検討でどの程度の感度が上がるかの検討がほしい。